日蓮大聖人の言葉から学ぶ：天の三光に身をあたため
地の五穀に神を養う

心を結ぶ本泉寺通信

Musubi

Vol.10
2025
春彼岸号

彼ってなに？岸

令和七年度

春季彼岸会

法要日　令和七年三月二十日（木）

時　間　彼岸会法要　正午より

ペット供養　午後二時より

場　所　本泉寺本堂

卒塔婆　一体　四千円

献　灯　一灯　二千円

◇先祖各位や水子、ペットの供養などに

彼岸会法要終了後、無縁塔と水子観音堂にて墓前供養を行います。併せてご参列ください。

●彼岸会には献灯を

本泉寺では春と秋の彼岸法要に「献灯供養」を行なっています。献灯とは、神社や寺院に灯明を奉納すること、または灯明そのもののことを指す言葉です。

仏教には「光明とは智慧のかたちなり」という教えがあります。光は心の闇を照らし仏様の知恵と慈悲を讃えるといった意味です。

大切なご先祖様に慈悲の光をお供えしましょう。

※献灯は各家のご先祖だけでなくペット等にもお供えする事が出来ます。

本泉寺開山四百年慶讃浄財奉納者芳名

令和6年12月

三口　八潮市　恩田一夫　様　三回目　計九口

令和7年1月

二口　三郷市　恩田孝一　様　四回目　計八口
十口　八潮市　恩田勝廣　様　三回目　計二十三口
八口　新宿区　平野猛文　様　二回目　計十六口
二口　八潮市　山田成利　様　二回目　計二口
二口　富士見市　株式会社サンライズ　杉山　淳　様　二回目　計二口
二口　流山市　株式会社ミユキ東京企画　後藤幸美　様　一回目　計二口

引き続き皆様のご協力をお願い致します。

勧募期間　令和九年十月十二日まで

勧募金額　一口壱万円より

◉前号にて緒方智恵子様の納入回数に誤りがありました。訂正してお詫び致します。

奉納者芳名

三郷市　恩田孝一　様　三回目　計六口
八潮市　恩田勝廣　様　二回目　計十三口
八潮市　恩田一夫　様　二回目　計六口
八潮市　恩田　操　様　二回目　計四口
八潮市　緒方智恵子様　二回目　計二口
新宿区　平野猛史　様　一回目　計八口
八潮市　滝口勝四郎様　一回目　計三口
八潮市　恩田隆二　様　一回目　計三口

石川塗装株式会社

越谷市　石川智淳　様　一回目　計三口
春日部市　髙橋真典　様　一回目　計二口
足立区　恩田明広　様　一回目　計二口
朝霞市　川端　登　様　一回目　計一口
葛飾区　恩田富美枝様　一回目　計一口
三郷市　山後和義　様　一回目　計一口
八潮市　滝口義則　様　一回目　計一口
八潮市　津谷一安　様　一回目　計一口

株式会社サンライズ

富士見市　杉山　淳　様　一回目　計一口
三郷市　藤原　守　様　一回目　計一口
墨田区　恩田　博　様　一回目　計一口
八潮市　山田成利　様　一回目　計一口
八潮市　井郷福治　様　一回目　計一口

合計　六十二口

令和六年十一月一日現在

お彼岸の由来

彼岸ってなに？

日本では春と秋に彼岸と呼ばれる年中行事があります。お盆と同じようにお墓にお参りする日と思いがちですが、お盆とお彼岸には大きな違いがあります。

彼岸とは、サンスクリット語のパーラミター（波羅蜜）の訳である「到彼岸」に由来しています。

仏教では元来、煩悩に満ち溢れるこの現世の世界を「此岸（しがん）」と呼び、あの世の世界の事を「彼岸（ひがん）」と呼びます。

「此岸」とは「こちら側の岸」という意味で、「彼岸」は「あちら側の岸」を意味しています。

そして、こちらの岸とあちらの岸の間には川が流れていて、生と死を分けるだけでなく、煩悩と悟り、俗世と来世を分けるものとされていました。

また、古代の中国では彼岸に太陽が沈む真西の方角に、極楽浄土があると信じられていて、太陽が東西へ一直線に動く「春分の日」と「秋分の日」は、この世（此岸）とあの世（彼岸）が最も通じやすい日と考えられ、死者を偲ぶ日、来世を偲ぶ日としてとらえられるようになりました。

このように、太陽の動きや天文学と浄土信仰が合わさって、「お彼岸」という風習が成り立ってきたのです。

暑さ寒さも

季節の移り変わりを示す言葉で「暑さ寒さも彼岸まで」というものがあります。

春分と秋分は、季節の移り変わりを示す「二十四節気（にじゅうしせっき）」のひとつで、暦の上では春と秋の折り目となります。

春分と秋分は、昼と夜の長さがほぼ同じになりますが、春分以降は昼が長くなるため寒さが和らぎ、秋分以降は秋の夜長に向かう為涼しくなっていきます。

こうして彼岸を迎えれば厳しい残暑や寒さに目処が付くため、「暑さ寒さも彼岸まで」と言うようになりました。

現代の日本で雑節の一つとして扱われている彼岸は春分と秋分を中日として前後の各3日を合わせた7日間の事を言います。最初の日を「彼岸の入り」最後の日を「彼岸明け」と呼び、中日には先祖に感謝し、残る六日は悟りの境地に達するのに必要な6つの徳目とされる「六波羅蜜」を一日に一つずつ修める日とされています。

此岸から彼岸へ近づく為に善行を積み、先祖に感謝する期間がお彼岸です。

悟りへの道

彼岸の7日間に修すべきとされる「六波羅蜜」とはどのような善行なのでしょうか。

岩波仏教辞典には「大乗仏教において菩薩に課せられた6種の実践徳目で般若経系の初期の大乗経典がこれを集大成した」とある。難しい表現がされていますが、一言でいうと六波羅蜜とは6つの善行の事です。

1)布施（ふせ）
財　施（衣食を与える）
法　施（真理を与える）
無畏施（安心を与える）

2)持戒（じかい）
戒律を守ること

3)忍辱（にんにく）
苦難に堪え忍ぶこと

4）精進（しょうじん）
仏道を実践すること
5）禅定（ぜんじょう）
瞑想で精神を統一すること
6）智慧（ちえ）
悟りを完成させる智慧

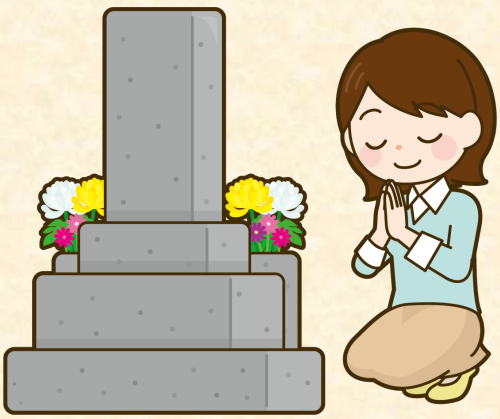
の6つとなります。
六波羅蜜の中ではこの智慧波羅蜜が肝要とされ、前の五波羅蜜はこれを得るための準備手段として必要とされています。
お釈迦さまはこのような善行を示し、悟りに至る道をお示しになられました。

日蓮大聖人と彼岸

日蓮大聖人は御書『一生成仏抄』の一節に
「衆生の心けがるれば土もけがれ、心清ければ土も清しとて、浄土といい穢土というも土に二つの隔てなし。ただ我等が心の善悪によると見えたり。衆生というも仏というも亦かくの如し。迷う時は衆生と名付け、悟る時をば仏と名づけたり。譬えば闇鏡も磨きぬれば玉と見ゆるが如し。只今も一念無明の迷心は磨かざる鏡なり。これを磨かば必ず法性真如の明鏡となるべし。深く信心を発して、日夜朝暮にまた懈らず磨くべし。いかようにしてか磨くべき。ただ南無妙法蓮華経と唱えたてまつるを、これを磨くとはいうなり」と記されました。
これは、此岸も彼岸もただ一つの心の置きどころ、乃ち彼岸は我が心の内にある自らの心の善悪によっておこるものであり、その心を磨くには常にお題目をお唱えする事であると示されているのです。
お釈迦さまは、悟りに到るために六つの善行をお説きになられましたが、私たち煩悩多き凡夫には、すべてを行うことはなかなか難しいものです。
しかし、日蓮大聖人はお唱えするお題目には6つの修行の功徳がすべて納まっていると説き、私達には容易ではない6つの修行が唱題の信心によって叶うとされたのです。
また『彼岸鈔』には「彼岸一日の小善は、能く大菩提に至るなり」と申されています。これは「彼岸七日の内に一善の行いを修せば、悟りを開いて仏となり、他の時節に功徳を積むよりも彼岸一日に小善を行えば、大いなる悟りの道に至ることができる」ということでこの時節をよく知った上で小善を行いなさいと、私たちにお勧めくださっています。

中日は先祖供養の日

先にも述べたように、彼岸は7日間にも及ぶ行事ですが、その真ん中の日である「中日」は先祖を敬う日であるとされます。
自宅ではご先祖のいらっしゃる仏壇を綺麗にするよう心掛け、ご本尊やお位牌仏具などを丁寧に掃除しましょう。
お供物には春はぼたもち秋にはおはぎが一般的とされています。
また、菩提寺に出向き、墓地へお参りすることも忘れてはなりません。
墓参に時間の制限はありませんが、古来より午後四時以降は仏さまの時間となるので避けた方が良いとされています。
また、供花も匂いのキツイものや棘のある花は避けるべきとされていますので墓参用として売られているものを選べば良いです。
彼岸のお中日を中心に、菩提寺の彼岸法要でお題目をお唱えして仏道修行に励み、その功徳をもってご先祖有縁の精霊にご回向したいものです。



〈連載〉

本泉寺見仏記

子安鬼子母神（こやすきしぼじん）

第７回

十羅刹女と申すは十人の大鬼神女、四天下の一切の鬼神の母なり。又十羅刹女の母ありの鬼子母神是也

『日女御前御返事』

鬼神の母

鬼子母神は八大夜叉大将の妻で、五百人の子の母であったが、これらの子を育てるだけの栄養をつけるために人間の子を捕えて食べていた。そのため多くの人間から恐れられていた。

それを見かねた釈迦は、彼女が最も愛していた末子のピンガラ（氷竭羅）を鉢に隠した。

彼女は半狂乱となって世界中を七日間駆け抜け探し回ったが発見するには至らず、助けを求めて釈迦に縋ることとなる。そこで釈迦は、「多くの子を持ちながら一人を失っただけでお前はそれだけ嘆き悲しんでいる。それなら、ただ一人の子を失う親の苦しみはいかほどであろうか。」と諭し、鬼子母神が教えを請うと、「戒を受け人々をおびやかすのをやめなさい、そうすればすぐにピンガラに会えるだろう」と言った。彼女が承諾し三宝に帰依すると釈迦は隠していた子を戻した。そして五戒を守り、施食によって飢えを満たすこと等を教えた。かくして彼女は仏法の守護神となり、また、子供と安産の守り神となり、また盗難除けの守護ともされた。

その像は天女のような姿をし、子供を一人抱き右手には吉祥果を持つ。なおこれをザクロで表現するのは中国文化の影響であり、これは仏典が漢訳された時は吉祥果の正体が分からなかったために代用表現したものであるとされるが、ザクロが子孫繁栄や豊穣の象徴として鬼子母神の持ち物となったとする説もある。

當山の子安鬼子母神像は明治二十年に起きた本堂火災によって焼失した鬼子母神像を再建した像であり、明治三十三年に二十三世常在院日泰上人によって十羅刹女像と共に開眼された像である。

現在の彩色は造像当時のものであり、経年による劣化が激しく、良い状態とは言えない。早急な修復作業が待たれるところである。

子安鬼子母神立像
像高　五十五㎝
奥行　十　六㎝
明治三十三年造像

TOPICS

お寺の掲示板

墓参用桶の奉納

市内の葬儀社「セレモニー藤波」様より、墓参用の桶と柄杓を３セットご奉納いただきました。
派手に名前が入っておりますがせっかくのご厚意ですので、使わせていただきます。
本堂前の水場に２セット、本堂裏の水場に１セット置かせていただきますので、ご使用になる際は、奉納に感謝し、大切にご使用ください。

縦横３メートル程度の
龍神様が描かれる予定
です。

龍神様が来る

當山では令和９年に迎える開山４００年の佳節に向けて皆様から貴重な浄財をいただいておりますが、この度、慶讃事業として本堂天井に龍神図を設置する事が決定致しました。
製作は身延山東谷にある美術集団「彫玄堂」に依頼しています。
詳細はおってご報告いたしますので今しばらくお待ちください。

日蓮大聖人の言葉から学ぶ

天の三光に身をあたため
地の五穀に神を養う

【四恩抄】

この言葉は日蓮宗の僧侶が修行中の食事前に唱える「食法」という言葉です。

私達の生命は、天の三光（日・月・明星）と地の五穀（米・麦・粟・豆・きび等）という大自然の恩恵によって存在しています。

それ故にその恵みに感謝の念を持ち続ける事がいかに大切であるかを教えています。

地球の恵みと神仏や先祖に感謝すると同時に、身と心を健康に保ち、そして今度は他へ報謝することを教え説く言葉なのです。

三月以降の年中行事

○春季彼岸会
三月二十日（水・祝）

○願満地蔵尊大祭
三月二十八日（木）

○開運大黒祭（甲子日）
四月二十五日（金）
六月二十四日（火）

茶坊主の小部屋

◉二月十日に大荒行堂が閉堂した。行僧を束ねる埼玉県修法師会の会長を務めている都合上、荒行僧の帰山式に参列したが、行僧の祈祷は他に類を見ない程の迫力であった。

私の五度目の入行はいつになるのだろうか。

第11号は令和7年夏発刊の予定です

発行
HONSENJI
日蓮宗 妙福山 本泉寺
埼玉県八潮市二丁目1472-1
TEL:048-996-9843　FAX:048-999-1884
mail:info@honsenji.jp